おたふくかぜ予防接種について 今年度新規事業

おたふくかぜとは

原　因	流行性耳下腺炎ともいい、ムンプスウイルスによる発熱と耳下腺腫脹（唾液腺の炎症）などを特徴とする感染症です。
傾　向	おたふくかぜは罹患すると、髄膜炎や睾丸炎、難聴や膵炎など引き起こすとされます。成人が感染すると小児に比べて重篤になるとされます。 特に思春期を過ぎた男子が感染した場合、高確率で睾丸炎を併発し、後に不妊症の原因の１つとなることも明かされています。

予防接種について

有効性	生後 12 カ月以上の健康な小児では、90％以上の効果が認められています。家族内での感染拡大の予防に、94.3％の効果が認められています。
副反応	発熱、耳下腺腫脹など（発症率 0.1~5％未満）

※掲載内容は、取扱説明書などを参考にしています

帯状疱疹予防接種について 今年度新規事業

オンライン申請は
こちら ＞

帯状疱疹とは

原　因	水痘・帯状疱疹ウイルスの感染による水痘が治癒した後、神経節に潜伏感染しているウイルスが、加齢や疲労、ストレスなどがきっかけで再活性化して発症する皮膚の病気です。
症　状	体の片側に水疱を伴う紅斑が帯状に広がり、痛みを伴うことが多く、症状はおよそ３～４週間続きます。皮膚症状治癒後も、帯状疱疹後神経痛が長期間続くことがあります。
傾　向	80 歳までに、３人に１人が帯状疱疹を経験するとされ、50 歳以上では帯状疱疹を発症した人の２割程度が、帯状疱疹後神経痛に移行するとされます。

２種類のワクチンについて

	生ワクチン（一般名：ビケン）	**不活性ワクチン**（一般名：シングリックス）
方法（回数）	皮下注射（1 回）	筋肉内注射（計 2 回）
予防効果	50~60％	90~95％以上
持続期間	5 年程度	10 年以上
副反応	・注射部位の痛み、腫れ、発赤 ・非常にまれにアナフィラキシーや血小板減少性紫斑病など重篤な副反応が現れることがある	・注射部位の痛み、腫れ、発赤、筋肉痛、全身倦怠感、悪寒、発熱など ・非常にまれに、アナフィラキシーなど重篤な副反応が現れることがある
費用目安	8,000 ～ 10,000 円程度（1 回接種）	40,000 ～ 50,000 円程度（2 回接種）
備　考	・免疫不全者や妊婦は不可 ・接種後、生ワクチンの接種には 27 日以上を空ける必要あり	〈2 回目接種について〉 ・間隔：1 回目接種の 2~6 カ月後に受ける ・使用ワクチン：1 回目と同じものを受ける

※掲載内容は、取扱説明書、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会資料などを参考にしています

こちらも助成対象

今年度新規事業

骨髄移植等の理由による定期予防接種ワクチン再接種費用助成

20 歳未満で、骨髄移植手術などの医療行為により、接種済みの定期予防接種の予防効果が期待できず、再接種が必要であると医師に診断された人を対象に、定期予防接種ワクチンの再接種にかかる費用を助成します。詳しくは、健康課にお問い合わせください。